

City Life NEWS

全国で注目される施策や課題は、地域で暮らす私たちにどう影響するのか？身近に起きた出来事やトレンドなど、幅広い分野のニュースを紹介していきます。ネットでもさまざまなニュースを紹介しています。



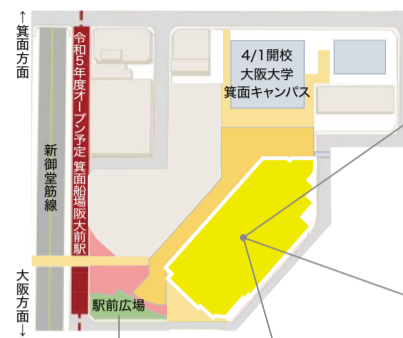
シティライフNEWS
で検索



MONTHLY OF TOPICS

箕面船場阪大前駅前の複合公共施設 5月1日オープン

建設中の複合公共施設。外装は市の名前に由来する農具の「箕」と船場地域を象徴する繊維がモチーフ(令和2年12月箕面市撮影)



2階3層
吹き抜きの
船場図書館



市民の講座
などを開く
船場生涯
学習センター



2023年度オープン予定の
駅前広場



大ホール(1401席)と
小ホール(300席)の
文化芸術劇場。
今年8月1日オープン。
(利用予約は受付中)

延伸工事が続く北大阪急行線で、新設する箕面船場阪大前駅前の複合公共施設が5月1日にオープンすることが発表された。2016年から工事に着手し、2023年度の完成を目指す「北大阪急行線延伸事業」において最初の開業となる同施設は、「文化芸術劇場」や大阪大学の図書館機能も備える「船場図書館」、「船場生涯学習センター」などが一体となり、4月には隣接する大阪大学箕面キャンパスも開校する。

工事が進む箕面船場阪大前駅周辺のまちづくりのメインとなる複合公共施設は、地上6階、地下1階。船場図書館は大阪大学と市の蔵書合わせて約71万冊を所蔵し、大阪大学が同図書館と船場生涯学習センターの2施設の管理運営することが決定している。国立大学法人として公立の図書館・生涯学習センターの指定管理者をするのは全国的にも珍しいという。同センターでは大学が持つ文化・教育研究

成果や国際交流活動の知見を活用した、市民向けの講座などを開催する予定だ。同時に駅前の各施設にアクセスするメインデッキと自転車950台などを収容する駐輪場もオープンする。

北大阪急行線は地下鉄御堂筋線に直接乗り入れるため、終着駅である箕面萱野駅から梅田まで24分で行くことができる。また、箕面市から新大阪・梅田・なんばなど大阪都心に乗り換えなしで直接アクセス

が可能となる。北急まちづくり推進室によると「緑豊かな住宅都市・箕面に利便性が加わり、まちの魅力がアップする。また、延伸線は1日に約45,000人が乗降すると予想され、さまざまな経済波及効果も期待できる」という。

2022年春には新御堂筋をまたぐ歩行者デッキ、2023年度にはイベントなどにも利用できる駅前広場など、駅と周辺まちづくり施設の完成を予定している。

SOCIAL

新型コロナウイルス感染症 第3波の現状について 豊中市保健所の場合

第3波の渦中にある新型コロナウイルス感染症について、現在も毎日のように報道がなされている。全国的な動きや府の情報は大手メディアで把握している人も多いだろうが、身近の状況については意外と知らないのではないだろうか。実際のところはどうか、豊中市保健所所長の松岡太郎さんに話を聞いた。

豊中市の現状

全国の報道と同様に、現在は同市でも第3波のピークを越えて感染者数は減少傾向にあり、「今後も減り続けるでしょう」と松岡さん。「ただし、1波～2波の間である昨年6月頃は感染者が4週間ほどゼロだったのが、2波～3波の9、10月は1日数名でした。次がどうなるのか、動向を注目しています。」波の詳細についてこう続ける。「波の初期は20～40代の若い世代で、後半は60～80代で施設や病院などでのクラスターが起きることが多い。若い人は比較的元気なため、感染していても外に出ています。そのまま多数と接触して、後半に高齢者が感染して重症化というケースが見られます」



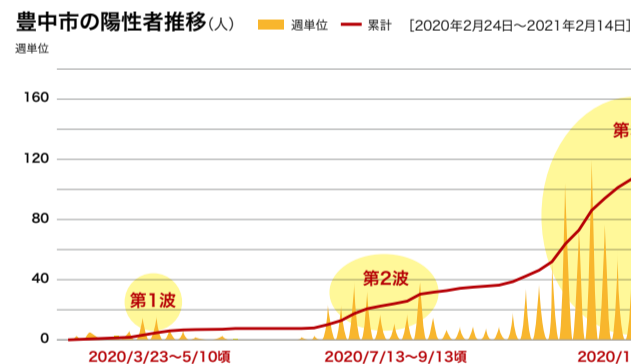
豊中市保健所の松岡太郎
所長

「医療のひっ迫」とは

市内の病院では、従来の病床数を「コロナの重症者用」「コロナの軽症・中等症者用」「コロナ以外の患者用」の3つに分けている。現在、感染者数は減っているものの、時間差で症状が悪化するため油断はできないという。医療現場においては「いつ何が起きても対応できるよう、特に軽症・中等症者用のベッドは一定数を確保しており、同時にスタッフもそちらに取られます。コロナ患者が少し減ったからといって元に戻すと、改めて確保することが難しいので、すぐに変えることはできません。そのため、今はコロナ以外の患者の病床がひっ迫しているという状況です」。

心がけてほしいこと

まずは「減少傾向だからといって安心せずに、引き続き感染症対策を行うことが大事」と松岡さん。初期段階では若者の感染が多いことから「『少しだるい』『鼻水が出る』といった症状でも、『疲れているだけかな』など普段通りの生活を続け、感染を拡大させている可能性があります。発熱してなくても、大事を取ってステイホームしてください。また「マスクは定着してきましたが、手洗いやアルコール消毒が疎かになりがちなので、気を付けてほしいですね」とも話す。



市公式YouTubeチャンネルで2月15日から「保険所長が答えるコロナワクチンQ&A」を配信。松岡所長自らコロナワクチンの接種方法などを解説する。

「症状が出たら」改めて手順を確認

同所では1月5日に「ワクチン接種対策チーム」を結成。接種に向けて準備を進めている。「国では一か所所で大人数に接種する『集団接種』を進めていますが、豊中市ではクリニックなどで受けられる、より安全な『個別接種』をメインに考えています」といい、高齢者など人の集まる場所が不安な人やかかりつけ医を持つ人は個別接種、それ以外の人や仕事などで時間が取れない人のために集団接種を検討

している。ワクチンへの不安がある人に向けて、3月からコールセンターを設置するほか、安全性について気軽な雰囲気でも説明できる場を設ける予定という。

「『ワクチンさえ打てば、もう大丈夫』と考えがちですが、感染者はすぐにゼロになりません。若い人は特に『自分たちの後ろには、高齢者がいる』ということを忘れず、ある時期までは感染症対策を怠らずに続けてください」と松岡さんは強調する。

※取材内容は2月中旬時点のものであります。

コロナに負けない!がんばろう!
北摂ワンチーム

医療従事者の皆様へのエールと
with コロナライフのエピソードを募集します

医療従事者の皆様へ向けてエールの言葉を送りませんか?また、コロナ禍で変化したコトや、苦労したコトなどのエピソードも合わせて募集します。それぞれの想いを発信しましょう。

【応募方法】氏名、応援メッセージ(100文字程度)、with コロナライフのエピソード(字数制限なし)を明記のうえ、下記の応募フォームから応募ください。

<https://ssl.form-mailer.jp/fms/4a199a53696202>

※全てのメッセージをシティライフWEBサイトにて掲載、一部をシティライフ紙面に紹介します。

